

日本における令和4年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



みんなちがって、みんないい。

これは金子みすずさんの詩の一部です。

みなさんは人との違いを気にしますか？

考えてみてください。人は外見も違うし、家庭環境、得意なことや苦手なこと、好みや趣味も違います。考えてみたら、違うのは当たり前ですよ。しかし、この違いを若い人は否定的にとらえがちで、それがコンプレックスとなってしまう、せっかくの成長を妨げてしまうということがよくあります。

この詩のように、みんなが違うことで、さまざまな個性がある社会となり、豊かな人生を送ることができるのです。もしみんな同じだったらどういう世の中になるのでしょうか？考えてみてもぞっとしませんか？みんな同じ。どこに行っても同じ。変化のない社会。きっと面白みに欠けてしまうことでしょう。金子みすずさんは

このことにいち早く気づいてこの詩を作り、世の中の人たちがお互いの良さを認め合うことで、多様性を認め合える、素晴らしい社会になってほしいという願いを込めたのではないかと思います。

みんなちがって、みんないい。ぜひみなさん、自分の短所もひっくるめて自分を好きになり、相手のことも認め合い、お互いコンプレックスを持つことなく、のびのびと成長していったほしいと思います。

異なる文化の尊重



『アマゾンに住む人たちは、イモムシやありを食べている』

このことを聞いて、何を感じましたか？おそらく、『えー、イモムシなんて無理！』とか、『そんなのキモイ！』という言葉言いたくなることでしょう。でも考えてください。アマゾンに暮らす人たちは、そうして生きのびて来たのです。自分たちと違うからと言って、軽蔑したりしてもよいのでしょうか？文化の多様性は認め合うべきものなのです。

余談ですが、北アメリカのアラスカで生活をしているイヌイトの人たちは、小さなころから生肉を食べています。そこで彼らは『命あるものを食べている』という感覚を身につけ、決して無駄な狩りはしないのだそうです。私たちも食事は残さず食べるように心がけたいものです。